



小岩四中だより
自主 品位 明朗 友愛
ひとすじの光

教育目標

明るく、心身ともに健やかで
ひとりだちのできる心豊かな人間になろう

令和8年度 第5号

令和8年7月17日 発行

江戸川区立小岩第四中学校長 村松 弘一

「頑張れ」を封印して見えた、顧客満足度の高い学校 ～生徒のレジリエンスを信じて生かす、子供ファーストの学校経営～

校長 村松 弘一

私は、生徒に気安く「頑張れ」と声をかけないようにしています。校長としては少し変わっているかもしれませんが、理由があります。

授業の終わりに、テストの前に、部活動中に、「とりあえず頑張れ」と口にしてその場を終わらせてしまう教員がいます。この一言は、中身を考えなくて済む便利な言葉であり、考えることをやめてしまう「**思考停止の合い言葉**」になりがちです。

本来は「何を」「どこまで」「どう変えればよいのか」を一緒に考える必要がありますが、その手前で「とりあえず頑張れ」とまとめてしまえば、教員の側はそれ以上踏み込まずに済みます。**何をどのようにすればよいのかを示さない「頑張れ」には、指導としての意味がありません。中身のない「頑張れ」は、指導ではなく責任放棄です。「頑張れ」と口にした側だけが、「励ましたつもり」になっている自己満足に過ぎないのです。**

「頑張れ」は、タイミングと中身を間違えると、生徒を静かに追い詰める言葉になります。

すでに限界まで頑張っている生徒には、「これ以上、いったい何を頑張ればいいのか」という絶望に近い問いを生みます。疲れ切っているときの「もっと頑張れ」は、「今のあなたでは足りない」と突きつけるメッセージとして響きます。

失敗したときにも同じ危険があります。「頑張れ」と言われ続けた生徒は、うまくいかなかったときに「自分は頑張りが足りなかった」「頑張れなかった自分が悪い」と、結果の全てを一人で背負い込みがちです。本来は環境や大人の関わり方にも要因があるはずなのに、それらまでも自分一人の責任として抱え込んでしまうのです。**私たち教員の「頑張れ」という一言が、生徒にとっては“自分だけが悪い”という自己否定を深める刃になりうることを、決して忘れてはなりません。**

顧客は生徒。子供ファーストの学校づくり

本校の学校経営方針は、「顧客満足度の高い学校」を実現することです。大人の評価ではなく、**子供の実感をもたせしめた学校**を目指しています。その中心にいる顧客は、毎日この学校で学び、生活している生徒一人一人です。

校長として、私は生徒を学校の「お客様」として捉えます。授業でも生徒指導でも、「この学校に来てよかった」と生徒自身が実感できるかどうかを、学校運営の基準に置きます。生徒の心の動きと頑張りをていねいに評価し、「ここまで頑張ってたね」「見ていたよ」と応える。**子供ファーストの学校づくりを進めます。**

教員が、説明もなく「とりあえず頑張ろう」「もっと頑張れ」と言うだけの学校では、いじめも不登校も減りません。**「頑張れ」の一言でごまかす学校経営からは、子供の安心は生まれません。**

生徒の声を起点にした学校経営を徹底することが、顧客満足度の高い学校への第一歩だと考えています。

「Good Luck」で支える日々の一歩

私は、生徒を「指導の対象」ではなく、「**自分の人生を生きている一人の人**」として見ています。小さな一歩を見逃さず、「ここまで頑張ってたね」「よくここまで来たね」と今の姿を認めてから次の一歩を一緒に考える。**そうした眼差しで、生徒一人一人の心に寄り添い、その日の表情やつぶやきに耳を澄ませながら、温かく見守る学校であり続けます。**

この考えから、私は「頑張れ」という言葉をほとんど使わず、代わりに生徒に「**Good Luck !**」と声をかけてきました。テストや試合の前だけでなく、何気ない朝や放課後にも、「今日も一日、あなたらしく過

せますように」という思いを込めて伝えてきた言葉です。

「**頑張れ**」ではなく「Good Luck」——それは、**努力をせき立てる号令ではなく、今の自分をそのまま受け止める合図です。**

「もっと頑張れ」という命令ではなく、「今のあなたのままで大丈夫。その一日がうまく運びますように」と願う静かなエールとして、生徒一人一人に届けています。



折れない心を育てるレジリエンス

だからこそ私は、「これからもっと頑張れ」と求める前に、「ここまで頑張ってたね」と、これまでの取り組みを評価し、賞賛することを大切にしています。上手くいった結果だけでなく、その過程で流した汗や不安と向き合い過ぎてきた日々、あきらめずに挑戦した姿に光を当てます。

困難や失敗から立ち直る心の力は、教育の場で「**レジリエンス**」と呼ばれています。思うようにいかなかったテストの後も、試合で負けた次の日も、もう一度前を向こうとする姿に気づき、言葉にして伝えることが、そのレジリエンスを育てる土台になります。そうして育まれた力が、困難に出会っても前を向き直る、**折れない心**へとつながっていきます。

本校は、「頑張れ」という一言に頼るのではなく、「ここまで頑張ってたね」「見ていたよ」と、生徒一人一人の歩みに寄り添う言葉を選び取る学校であり続けます。生徒を「お客様」として大切に迎え、その心の動きと頑張りに最高のおもてなしで応える学校であることを、校長として明確に打ち出します。

四中生の活躍

◎ソフトテニス女子個人の部 第3位

第58回江戸川区立中学校夏季総合体育大会

◎バドミントン団体の部 第5位

第58回江戸川区立中学校夏季総合体育大会

◎陸上 女子中学2年100m 第1位

第79回区民総合体育祭春季大会

◎卓球女子シングルの部 第9位

第58回江戸川区立中学校夏季総合体育大会

生徒名略

9月行事予定

日	曜	行 事	授業 形態	日	曜	行 事	授業 形態
1	火	始業式 避難訓練(引き取り)	特別	16	水		平常
2	水	給食始	平常	17	木	中間考査	特別
3	木	学校公開始	平常	18	金	中間考査 芸術鑑賞教室	特別
4	金		平常	19	土		
5	土	土曜授業 English Day 学校説明会 PTA 常任委員会	平常	20	日		
6	日			21	月	敬老の日	
7	月	振替休業日		22	火	国民の休日	
8	火	2学期時間割始 小6授業・部活動見学	短縮	23	水	秋分の日	
9	水	道徳授業地区公開講座 学校公開終	平常	24	木	領域診断テスト(3)	平常
10	木	専門委員会	短縮	25	金	選挙リハ 英検	平常
11	金	中央委員会	短縮	26	土		
12	土			27	日		
13	日			28	月	生徒会役員選挙	短縮
14	月	生徒会朝礼 安全指導	平常	29	火	前日指導(3)	平常
15	火		平常	30	水	修学旅行(3)	平常